

琵琶湖博だより

琵琶湖から発見された原生動物の新属新種：
アポカルケシウム・ロゼッタム (白線は 0.1mm)



生き物の多様性を地域の人たちと調べる

～ナミテントウの斑紋変異～

生物多様性条約第10回締結国会議(COP10)が2010年10月に名古屋で開催されました。生物多様性は「種」、「遺伝子」、「生態系」などいくつかの生物学的階層にわたる多様性の概念で、種などの「要素」だけでなく、生物と生物の間の相互作用など要素間の「ネットワーク」をも含む幅広い内容を持っています。私たちの顔などに個性があるように、同じ種でも異なる遺伝子を持つことによって、形や模様、生態などにいろいろな個性があります。これは生物多様性の3つの要素「種の多様性」、「遺伝子の多様性」、「生態系の多様性」の一つである「遺伝子の多様性」です。多様な遺伝子があると環境の変化や伝染病が起こっても、それに強い遺伝子を持つ個体が生き残ることができます。そのため、遺伝子の多様性も重要となってくるのです。

「遺伝子の多様性」の例として知られているのが、ごく普通に見られるナミテントウムシの翅の斑紋の変異です。ナミテントウの翅の斑紋には数多くの^{まだら}変異がありますが、大きく「二紋型」、「四紋型」、「紅型」、「斑型」の4つの型に分かれます。日本列島では、北から南へ移行するにしたがって、「二紋型」の「紅型」に対する比率が連続的に高くなると言われていました。昨年、琵琶湖博物館のフィールドレポーターの皆さんが、このナミテントウの斑紋の割合に興味を持たれて滋賀県内ではどうなっているのかを調べられました。その結果、二紋型の割合が最も高く64%、次いで四紋型が16%、紅型が13%、斑型が5%というこ

とがわかりました。他の調査地域との比較の結果、京都府の調査結果とほぼ同じ割合であることがわかりました。当たり前の結果であったわけですが、それが具体的なデータによって示されたことには意義があります。最近の研究では、地球温暖化の影響でこの斑紋の割合が変わってきているという報告もあり、今回の調査によって新たな研究課題が広がりました。

生物多様性というと難しく縁遠い存在のように感じられますが、テントウムシのような身近な昆虫から生き物の多様性のことを考えてみられてはいかがでしょうか。

(専門学芸員 ^{きひろかつろう} 八尋克郎)



ナミテントウ四紋型



ナミテントウ二紋型



ナミテントウ紅型

(ナミテントウ二紋型、紅型の写真はフィールドレポーター森擴之さん提供)

学校サテライト博物館

琵琶湖博物館では、2007年度から学校サテライト博物館事業を実施中です。この事業は、博物館の標本や展示パネルを学校などの余裕スペースで展示し、さまざまな活動に活用されることを目指しており、2010年度は甲賀市立佐山小学校・高島市立青柳小学校・長浜市立永原小学校に設置しました。

化石や魚・水鳥などの標本の展示に加え、学校の先生方と博物館職員が連携した活動も実施しています。学芸員が学校に伺い、地域のカバタを見学しながら「水の利用」について一緒に考えたり、子どもたちがつかまえた生き物の飼い方を説明したりしました。

また、学校サテライト博物館を会場とした指導者研修や観察会、子ども向け体験学習などのイベントもおこなっています。

このような活動の中で、博物館からの展示物だけでなく、子どもたち自らの学習成果や地域の方から提供いただく標本も展示され、学校や地域と博物館がお互いに交流できるような取り組みを目指しています。

なお、2011年度には現在青柳小学校に設置している展示の移動を予定しています。設置を希望される場合は、交流担当：大依・飯住までご連絡ください。

（主査 おおよりひさと 大依久人）



写真

- ① 開館時の様子
- ② 標本を観察する子どもたち
- ③ 博物館のカワヤ（カバタ）の展示
- ④ 博物館の器材を使い、学校近くの川でプランクトン観察

だいえんにち びわこ大縁日

～想いを集め、次の未来へ～

これからの環境と暮らしを、ともに考える交流イベントです。

2010年12月5日(日)～12日(日)

10:00～16:00

※12/6(月)は休館日、
12/12(日)は15:00まで

【会場】企画展示室・ホールほか
【主催】びわこ大縁日2010実行委員会
【共催】琵琶湖博物館



参加無料

琵琶湖博物館では活動目標として「地域だれでも・どこでも博物館」をあげています。これは生活・生業の場である地域で活動しているひとびとの協働を進め、それぞれの地域が博物館と呼べるように応援を広げていくことです。

主役はみなさん、目指すは「地域だれでも・どこでも博物館」！

鳥の目 魚の目 クイズ

「アポカルケシウム・ロゼッタムについて」

Q アポカルケシウム・ロゼッタムの種名の由来はなんですか？

- ① タンポポの綿毛
- ② チアリーダーのポンポン
- ③ バラの花

答えは、紙面のどこかにあります。

◆巻頭写真の説明

2009年に琵琶湖博物館学芸員と中国の研究者が共同で琵琶湖から発見した原生動物の新属新種：ツリガネムシのアポカルケシウム・ロゼッタム。種名のロゼッタムの由来はロゼット状、つまりタンポポの葉のように放射状に柄の先端から1つ1つの細胞が出ていることに由来します。ちなみに、ロゼットの語源はローズからきています。

編集後記

「生物多様性」に注目が集まっています。生物種の多さと、生態系の豊かさ、遺伝子の多様さを含めた幅広い概念だそうです。今号に登場したテントウムシやツリガネムシなど、普段は気にしない小さな生きものたちの生活もこの地球を支えています。人間社会の利害関係で、生物多様性が損なわれることのないことを願います。